

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
	理念をつくり、取り組んでいる。秩父の自然を肌で感じられるよう、四季折々に外出し、地域のお祭りや運動会に出かける等心がけている。又、地域の人々や学生がボランティアで苑に来てくれるので交流がある。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
	毎朝の申し送り時に理念を復唱し、つねに念頭に置きながら取り組むよう心がけている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
	運営推進会議で家族と地域の代表者に地域との交流を大切にしたい理念に基づく活動等も報告し、理解してもらえようようにしている。		
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
	散歩などで顔を合わせると世間話をしたり、畑でとれた野菜をいただいたりしている。		今後は近所の方々が気軽にお茶飲み立ち寄りするような関係をつくっていきたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		
	ホーム長が区長をしており、日頃から関係を深めている。地区の運動会やお祭りの見学にも出掛け、交流を図っている。又、地区の小学生が見学に来たり、中学生がボランティアをしてくれることもある。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>ホーム長が民生委員、地域住民に対して地域の高齢者をかかえる家族に苑を見学していただくよう、声かけをしている。又、苑で相談に乗るように心がけている。</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>意義を理解し、評価をし、提出している。改善策は会議で話し合い、なるべく前進するように取り組んでいる。</p>		<p>改善できないこともあるので、今後会議で計画を立てながら対応していく。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>二ヶ月に一度、運営推進会議を開催。家族、役場職員、民生委員にも参加していただき、話し合いを行っている。</p>		<p>今後は話し合うテーマを決め、それにそって意見を出し合い、より充実した会議を目指す。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>役場健康福祉課や介護支援センターに行き、話をすることはあるが、まだ取り組みは弱い。</p>		<p>行き来する機会を多くし、情報を多く得たり、指導をお願いしたりする。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>成年後見人制度等、学ぶ機会がとれていない。</p>		<p>研修に参加し、職員全体に知識を広め、対応できる力を身につけるよう努力する。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待の防止については指導者が注意を呼びかけ、日常見過ごされることがないように防止に努めている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>なるべく時間を多くとり、くわしく説明している。納得して契約していただけるよう、又、不安をとりのぞくよう心がけている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者が不満や苦情を職員に表している。改善すべきことは真摯に受け止めている。</p>		<p>介護相談員等外部者が来苑する機会がとれる場合には積極的に活用する。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>利用者の状態については毎月用紙に記入し、送付している。職員紹介はわらび苑だよりや家族会等で行っている。金銭管理については必要に応じて面会時等に報告している。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議で意見を聴く他、苦情相談窓口についても説明している。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>意見箱を設置し、無記名で意見が伝えられるようにしている。又、会議で意見を出し合い話し合っている。</p>		<p>職員一人ひとりと話をする時間を設け、意見のしやすい環境をつくる。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>必要に応じて勤務時間を変更する等の対応をしている。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>当苑で異動はないので、離職を抑えることに関しては、管理者が中心となり、職員の意志を良く聴いている。要望も多いので、取り入れると勤務の指定も難しくなるが、長期雇用を図る為、又、楽しく働けるように努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>社会福祉協議会主催の会議・研修になるべく参加するようにしている。</p>	<p>職場研修担当者養成研修もH19年8月に参加しているので、今後学んだ内容を生かし、計画を立て、育成を図っていく。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域の同業者との交流する機会はほんの少ししかなかった。一部他施設の知り合いからは情報を得たりサービス向上について教えていただいたりはしている。</p>	<p>秩父郡市地域密着型サービス事業者連絡協議会が設立予定であるので、それらを通じて交流を図っていきたい。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>管理者が中心となり、職員の悩みやストレスを把握するよう努めている。気軽に相談する雰囲気はあると思う。</p>	<p>時間に追われることも多いので、職員が意見を表しやすい工夫をしていく必要がある。</p>
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>一人ひとりの努力や実績、勤務状況を把握するようにしている。上位の各資格取得をするよう指導している。資格取得に向けての資料等、掲示、配布している。</p>	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>急な入所希望が多く、本人から話を聴く時間がなかなかつけない。体験入所を取り入れており、わらび苑での生活を体験してもらい、納得してから入所することができる。</p>	<p>入所の相談を受けた際には、なるべく実際に会って話ができるよう取り組んでいく。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入所の相談があった場合には、一度居室等見て確認していただき、ゆっくり話をする時間をつくっている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学時や相談時、くわしく話を聞き、利用者の状況を把握している。利用者とも話し、本人の考えを尊重した対応に努めている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	その人その人に合ったペースで対応している。必要に応じて体験入所ができ、わらび苑での生活を体験してもらった上で、入所の判断ができる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	地元の郷土料理作りや野菜作りなど、利用者から学ぶ機会がある。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	運営推進会議や面会時に相談にのったり、職員側から相談したり、協力し合いながらケアに取り組んでいる。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	必要に応じて本人と家族の間に立ち、よい関係が保てるよう支援している。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔からの思い出の場所を訪れたり、家に立ち寄る支援をしたり、個々に合わせて対応している。行きたい場所等聞いておき、個別処遇の時間などを使って実行するようにしている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	関係の悪い利用者の中に職員が入り、仲をとりもつよう心がけたり、気の合う利用者同士で過ごす時間を大切にしたりしている。又、リビング等では皆で楽しく過ごせるよう声かけを工夫している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	まだ事例がない。		希望があれば、ぜひつき合いを大切にしていきたいと思う。
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で積極的に話をし、本人の望んでいることが理解できるよう努めている。困難な方については本人が何を望んでいるのか考え、検討している。		希望や意向を伝えられない方に関しては、全職員が日頃から何を望んでいるのか、理解しようという姿勢でケアに取り組む。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	会話の中でも昔の様子や身の回りの出来事等聞くことが多く、ケアに生かすよう心がけている。		今までのように家族の面会時には以前の様子等お聞きする機会が多いので、アセスメント表に記入し、ケアに生かす。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日頃のケアの中で、自然と状態の把握、生活リズムの把握ができていように思われる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプランの立案、見直し時にはケアカンファレンスを行い、皆で意見を出し合いながら作成している。		現在、家族からはケアプランの立案に対しての意見・要望を聞くだけで、カンファレンスには参加できていないのが現状。今後はカンファレンス日時をお知らせし、できるだけ参加してもらえよう検討していく。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	必要に応じて行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活記録の他、バイタルチェック、食事摂取量等を記録し、個別のファイルに管理している。職員がいつでも目を通すことができる。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	希望に応じて外出や予定外の通院等の支援を行っている。又、買い物をつたのまれた際には利用者になり、その都度行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議への民生委員の参加の他、緊急時の対応など、消防署で指導に来ていただいている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	希望や必要に応じて、他の事業所と連携を図り、サービスを利用していただけるよう取り組む。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとの情報交換等実施できていない。		運営推進会議へ地域包括支援センター職員にも参加していただけるようお願いし、意見交換や必要な際に協力しあえる体制をつくっておく。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医療機関があり、本人、家族が納得した上で受診している。又、その他にも必要があった場合には、他の医療機関の受診も支援している。		今後も本人、家族が他の医療機関の受診を望む場合には支援していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症の専門医との関わりはほとんどない。必要に応じて精神科を受診し、指示を仰いだことがある。		提携医療機関に神経科、心療内科が開設されたので、必要に応じて受診し、相談、治療を行っていく。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員が配置されていない。		今後看護職員を配置し、健康管理面において安心した生活を送れるよう支援することが望まれる。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院の際には、必要な情報を医療機関に提供し、連携を図っている。又、医師やナース、家族から病状を聞いたり、本人を見舞ったり、相談し合いながら退院に向け取り組んでいる。		苑から遠い医療機関に入院された場合のように対応していったらいいか、今後検討していく必要がある。
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の対応方法等、運営推進会議で話し合っているが、不十分である。個人的には、面会時等に時間をとり、話し合いを行っている方もいる。		運営推進会議で度々取り上げ、意見を出し合いながら、よりよい対応方法を模索していく。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ターミナルケアについてのホーム側の知識が少なく、どういう状態であればホームで看取ることができるのかははっきりとしたものがない。		ターミナルケアの研修への参加や勉強会を行い、職員で話し合う時間をもつ。その上で、わらび苑で可能なターミナルケアの範囲を決め、本人、家族にくわしく説明し、話し合っていく。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替え先との細かい情報交換、連携を心がけ、又、本人に対しても不安をなるべく感じさせないよう配慮している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>プライバシーの保護に関しては、採用時に説明したり、会議やケアカンファレンス時に話をしたりしている。声かけに関しては度々注意し、徹底を促している。</p>	<p>職員によっては知らず知らずのうちに利用者を傷つけてしまっていることもあると思われる為、今後もその都度指導していく。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>飲み物やおやつを選択、ショッピングや外出などへの参加の有無など、本人の希望を聞いたうえで対応している。選択する場面をなるべく多くつくるよう心がけている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>本人の思い思いに寝たり起きたりし、又、自由に散歩へ出たり、畑での活動をしたりと本人の気持ちを大切にしている。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>散髪については利用者の家族が定期的にボランティアに来てくれており、皆喜んでいる。希望によって他の店にも行けるよう支援するが、今の所希望はない。</p>	<p>自分から化粧をする方はいないが、皆で化粧をする時間をつくることで、いきいきと喜んでもらえるといい。</p>
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者や職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>畑の野菜を収穫したり、皮むきなどの下ごしらえをしたり、自分のできる範囲で参加している。食事は皆で一緒に楽しく会話しながら行っている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>お酒、たばこ等の嗜好品は、他者に迷惑のかからない限り、本人の希望により楽しんでいただけるようにしている。外食時にもお酒を楽しめるよう配慮している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>必要に応じて排尿チェック表を使用したり、時計を見計らって誘導したりしている。又、臭い等にも配慮している。</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>入浴は職員の多い時間帯に行わなければ困難なのが実状である。希望により時間を遅らせる等の工夫は行っている。又、入浴を拒否する方については夕方や夜間の入浴を勧めたりと努力している。</p>		<p>なるべく希望に添った入浴が行えるよう必要に応じて検討していく。</p>
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>日中でも自由に居室に横になったり、疲れが見られる時にはゆっくり休めるよう配慮したりしている。夜間良く眠れない利用者に関しては日中活動的に過ごせるような支援を心がけている。</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>畑仕事や草むしり、又、縄あみなど、以前からやってきたことが生きがいとなっている方もいる。又、読書や編み物などの趣味が楽しめるよう図書館で大きな活字の本を借りてきたり、支援している。</p>		
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>希望により、自分でお金を持っている方、苑で預かり、ショッピングなど必要な時に渡している方等個々にあわせて対応している。</p>		<p>お金を所持していない方に関してはショッピング、外出時にお金がなくて買えないと思う方もいるので、苑で決まった額を管理し、ショッピング等にそのお金で買ってもらうよう検討していく。</p>
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>毎日自由に散歩へ出かけ、一人では困難な方に対しても度々散歩へ付き添い、気分転換を図っている。ドライブで花や景色をながめ、楽しんでいただけるよう心がけている。</p>		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>個別処遇の時間をつくり、一人ひとりの希望が叶えられるよう努力している。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話に関しては子機を使い、居室でゆっくり話ができるよう支援している。年賀状等希望によって支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は自由であり、居室で気兼ねなく過ごしていただける。訪問者を温かく迎えられるよう会議で指導し取り組んでいる。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所開所時から身体拘束は行わないと決め取り組んでいる。日々身体拘束を行わない為の努力を行っている。		権利擁護、身体拘束についての勉強会が不十分である為、今後時間をとり学んでいく。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者が自由に過ごせることの大切さを職員が理解しており、居室はもちろん、日中玄関に鍵をかけることはない。必要に応じて付き添ったりこまめに居場所の確認を行っている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は利用者の様子が分かりやすい位置で作業するよう心がけている。夜間は2時間おきに巡回を行っている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険な状態でなければ、本人が管理し、様子を見守っていくようにしている。必要に応じて本人に話し、納得の上預かることもある。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	定期的に避難訓練や消火器の使用方法を学んでいる。又、ヒヤリハットを記録し、毎日の申し送り時に確認し、対応を検討している。		行方不明時の対応等、話し合いの時間をもち、マニュアルを作ることで、すぐに対応できる能力を身につける。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的に消防署職員に指導していただき、心肺蘇生法等の訓練を行っている。又、勉強会にてのどの詰まりや発作等の対応を学んでいる。		マニュアルが不十分である為、様々な場合において対応ができるよう整備していく。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に避難訓練を行い、又、毎週月曜日申し送り時に消火器の使い方を確認している。災害の研修に参加し、ポリタンクに水をくんでおく、ラジオの用意など、いざという時に備えるようにしている。		地域の方々へ対して、災害時の協力が得られるよう、会合などの時に働きかけていく。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族の面会時など、必要に応じてリスクに対する話し合いをもっている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルチェックを行う他、日頃から顔色や本人の様子に気を配るよう指導している。必要に応じて医師に相談する、受診する等の対応を行っている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	便秘に対する服薬等毎朝申し送り時に話し合い対応している。薬を本人に手渡す場合等、飲めたかどうか確認している。		薬に対する知識や状況の変化への対応など、職員によって個人差があるので、勉強会を行っていく。投薬の一覧表を作り、一目で薬の把握ができるようにしていく。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の方が多いため、日頃から水分摂取量やヨーグルト等食べ物の工夫、散歩等の支援を心がけている。		乳酸菌飲料の摂取等、日々検討し、便秘予防につとめる。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎夕食後、歯みがきの声かけ・介助を行い、又、週2回義歯の洗浄を行い、清潔を保つよう心がけている。状態によっては毎食後の歯みがき等支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日頃から一人ひとりの状態や好みなどを考慮しながら取り組んでいる。記録表を用いて食事摂取量をチェックし、対応に生かしている。		栄養面に関して、栄養士にアドバイスをもらってからだいたい日にちがたってしまったので、今後は定期的にチェックしていただけるよう検討していく。日頃から全員の水分量を記録し、把握できるよう検討する。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	毎年利用者は了解の上、インフルエンザ予防接種をうけている。流行の季節等対応を申し送りなどで再確認し、予防に努めている。		マニュアルが不十分であり、細かく整備していく必要がある。日頃からしっかりと感染予防に取り組むよう、対応を話し合っていく。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	衛生管理について、会議で頻繁に話し合っている。まな板、包丁の消毒、ふきんの漂白等、皆で取り決め、実行している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関まわりに花を植えたり、飾ったりし、家庭的な雰囲気がある。又、よい季節には玄関を開けておき、苑内の様子もよく分かる。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、ゆず湯にしたり、季節の郷土料理を作ったり、四季を感じてもらえるよう心がけている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関や廊下にソファや椅子を置いたり、外でも気軽に日光浴等できるよう、椅子を出すようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の好きな歌手のポスターを貼ったり、好みのカレンダーを貼ったり、又、テレビや使い慣れたタンス、机等使っている方もいる。人によっては特に何もなく、淋しい感じのする居室もある。		運営推進会議でも家族の方に安心のできる過ごしやすい居室となるようにということで協力を求めている。今後も必要に応じて話をしていくようにする。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	なるべく窓を開けるよう心がけ、換気に注意している。冷暖房は利用者の様子をみながらこまめに調節している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要に応じて手すりを増やしたり、浴室のすべり止めマットを増やしたりし、対応している。		洗濯物を干す場所、方法について検討し、利用者の意欲が引き出せるようにしていく。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	日頃から利用者の状態を把握するように努め、なるべく自立した生活が送っていけるよう、必要な支援をするようにしている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭先に椅子を置き、好きな時に外で過ごせるようにしている。又、畑仕事(野菜の収穫、草むしり等)や花への水やり等、自由に活動できるようにしている。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に つけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に つけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

わらび苑は四季を肌で感じる、自然に囲まれた環境にあり、畑で野菜を育てたり、散歩をしながら草花を摘んだり、山々の新緑や紅葉をながめたり、穏やかな生活を送っていただけるよう支援している。毎日の食事には、畑で収穫したばかりの新鮮な無農薬野菜もならば、旬の味を楽しんでいただいている。

日々の生活ではふきのとうや栗などを収穫したり、縄あみや草むしりを行ったり、昔ながらの田舎の暮らしを送ることができる。